

# いきいき 行田人

## YOSAKOIソーランに魅せられて

### 島野 修さん (47歳・下忍)

市内外の祭りなどで粋な踊りを披露し、会場の雰囲気盛り上げているYOSAKOIソーランサークル「響」。今月は同サークルの代表を務める島野修さんを紹介します。

YOSAKOIソーランを始めたのは、44歳のときに下忍公民館で開催された講座に参加したことがきっかけでした。初めのころは「体力的にきついな」「振り付けをちゃんと覚えられるかな」と不安を抱えながら踊っていたそうです。現在は、自宅でももちろん車内でも必ずYOSAKOIソーランで使用する曲を流し、振り付けをイメージするほどこの踊りに夢中になっている島野さん。「踊りを始めたころは、今の自分の姿を全く想像することができませんでしたよ」と語ります。

講座も残りわずかとなり、何とか一曲踊れるようになったところ、当時の公民館長から思わぬ依頼を受けます。「文化祭で踊ってほしいな」。島野さんは、講座の参加者と共に初めて人前で披露することになりました。しかし、この体験が、当初抱いていたYOSAKOIソーランに対する印象を



180度変えることに。演技終了後、観客から「あなたたちから元気をもらったよ」といった温かい声を掛けてもらったり、盛大な拍手をもらったりと、予想外の反応を目の当たりにしたのです。その光景に胸がいっぱいになると同時に、人々に感動を与えるこの踊りのすばらしさ、いつの間にか心を奪われていました。

「講座だけで終わらせたくない」。同じ志を持った仲間と共に、平成23年11月にYOSAKOIソーランサークル「響」を結成し、代表を務めることになりました。「メンバーには思い切り踊りを楽しんでほしい」とそんな思いで結成当初からこれまで活動してきた島野さん。結成から2年以上がたった今、すてきな笑顔で楽しそうに踊っているメンバーの姿を見るのが、何よりも楽しみになっているそうです。

現在、島野さんは同サークルのメンバーと一緒に「響」オリジナルの曲を作成中。



ダイナミックな踊りで、観客を魅了する「響」の皆さん  
「曲が完成したら、勢いのある踊りを皆さんに披露して、私たちの存在を広めていきたいですね」と熱く語ります。サークルの代表として、そして1人の踊り子として、心躍る日々はまだまだ続きます。

# 私の作品

## 俳句

◎皆さんの作品を募集しています。  
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へ応募ください。

球根の鉢を並べて冬に入る  
荒木 森田 静  
復興の願いも込めて除夜の鐘  
城南 関口 操

薄氷を踏みて七十路畑仕事  
持田 伊藤 洋子  
柚子の香を付けし湯けむり立ちこめる  
城西 新井喜榮子

八十路過ぎ数の減りゆく年賀状  
谷郷 吉野 六郎  
定年後夢見た秘湯雪見酒  
渡柳 川田 清

酒を断ち煙草も断ちて年忘れ  
白川戸 松本 忠之  
 positioningを猫にとられし日向ぼこ  
荒木 藤田 明枝

裁断と槌音絶えぬ足袋の町  
向町 渡月 峯  
水仙の芳香満ちし茶席かな  
持田 長田 義子

故郷の雪の便りに孤愁あり  
持田 丸山 麟一  
支え合い生きし夫婦の日向ぼこ  
矢場 鈴木かづの

ちらほらと小枝に咲けり雪の花  
斎条 中村 英子  
大根煮る厨に妣の面影が  
佐間 須永 節子

奥の間に夫の形見の冬帽子  
城南 橋本千枝子  
しみじみと母の味なる根深汁  
向町 小沼 重蔵

雨の中楚々と咲きたる野水仙  
城西 八木橋近蔵  
ぬくぬくと膝に猫置き初日記  
下忍 島崎 もと

床の間を背景にして初写真  
須加 蓮 陽子  
五年間うめる覚悟の初日記  
忍 丸山 蓮子

(三沢 一水 監修)

# はじめまして

平成25年  
2月生まれの  
おともだち

平成25年4月生まれの  
お子さんを募集します

○2月3日(月)～28日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。  
○応募者多数の場合は、3月4日(火)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



訂正とお詫び  
「市報ぎょうだ」1月号に掲載した記事の一部に誤りがありました。次のとおり訂正の上、お詫び申し上げます。  
27ページ はじめまして  
(正)小倉 来望ちゃん  
(誤)小倉 来夢ちゃん



内山 寧音ちゃん(長野)  
平成25年2月12日生まれ  
父 盛昭さん 母 あさみさん  
「姉妹仲良く 明るく元気に♡」



吉野 菜南ちゃん(南河原)  
平成25年2月26日生まれ  
父 正道さん 母 尚美さん  
「我が家に 無降りた天使♡」



黒澤 優佳ちゃん(下忍)  
平成25年2月22日生まれ  
父 正志さん 母 恵さん  
「いつも笑顔で、 ありがとう♡」



石郷岡 依莉波ちゃん(棚田町)  
平成25年2月13日生まれ  
父 一磨さん 母 仁美さん  
「笑顔いっぱい。 我が家の太陽です。」



木島 有琥ちゃん(上池守)  
平成25年2月2日生まれ  
父 崇至さん 母 幸子さん  
「頑張り! 小さな冒険家♡」



原口 真実ちゃん(谷郷)  
平成25年2月28日生まれ  
父 靖史さん 母 奈央子さん  
「明るく元気に 育ててね♡」



## ぎょうだの会社を クローズアップ!!

### 株式会社風憩セコロ 「エコ」で憩いの風景を創造



会社プロフィール  
代表取締役社長 花田正実  
事業内容 クリーンエネルギー製品、リサイクル材製品、アルミ手すり製品の設計・製造・販売

「憩いの風景を創造する」という思いから、平成11年に創業した株式会社風憩セコロ。ソーラー照明灯やベンチ、手すりなどの空間デザイン製品を提供し、まちの景観を形成している会社として注目を集めています。同社は環境にやさしい素材から製品を生産していますが、中でも一押しは廃木材と廃プラスチック材を混ぜ合わせたリサイクル再生木材「セコロウッド」です。製品化に至るまでに何度も試行錯誤を重ね、平成13年に完成しました。防腐性や耐久性に優れ、天然の木と同等の質感を持つこの素材は、海岸や河川沿いでも安心して利用することができそうです。同社は、この「セコロウッド」と、リサイクルしやすいアルミニウム素材を組み合わせた製品を幅広く取りそろえています。

さらに、平成15年には、ソーラー照明灯「ソライト」を開発。完全独立電源型で電気工事が必要とせず、LED照明のため消費電力も少ないという特徴を持つこの照明灯は、災害時の非常灯としても使用することができます。市内では、水城公園に27灯設置されており、普段の日はもちろんのこと、東日本大震災の停電時にも市民の憩いの場を明るく照らしました。同社の製品は、主に公園や道路などの公共スペースに使われています。そのため、ネジ1本でも人が触れて危険がないよう、さらに、景観に調和するよう、使う人の気持ちになって作っているそうです。ユーザーからは「機能性だけでなく、デザイン性も高い」と高い評価を得ており、全国各地から同社の製品を求める声が上がっています。「こころ行田の自社工場、より環境に配慮したこだわりの製品を生み出していきます」と熱く語る花田正実社長。同社はこれからも、独自性あふれるエコな製品で、安らぎの風景を創出していきます。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。